

今週のみことば

「見よ。あなたの王が来られる」

(ゼカリヤ書9章9節～10節)

「シオンの娘よ。大いに喜べ。エルサレムの娘よ。喜び叫べ。見よ。あなたの王があなたのところに来られる。この方は正しい方で、救いを賜り、柔和で、ろばに乗られる。それも、雌ろばの子の子ろばに。」(9:9)

(ヨハネの福音書12章12節～16節)

「恐れるな。シオンの娘。見よ。あなたの王が来られる。ろばの子に乗って。」(12:15)

今日のメッセージ要旨

◎私たちは身分の高い高貴な方が自分の所に来られるとはあり得ないことで、まして王様が私たちの所に来られるとは考えられないことです。しかし、現実にそのことが実現したのです。

◎ゼカリヤ書9章9節は、イエスの十字架にかけられる前の「棕櫚の日曜日」のエルサレム入城において成就した預言として有名です(ヨハネ12:12-15)。

預言者ゼカリヤはまず、「シオンの娘よ。大いに喜べ。エルサレムの娘よ。喜び叫べ。見よ。あなたの王があなたのところに来られる。この方は正しい方で、救いを賜り、柔和で、ろばに乗られる。それも、雌ろばの子の子ろばに」と記しています。「柔和」であることのしるしが、「雌ろばの子の子ろば」に乗るという形で現されます。戦いを主導する王であるならば、馬に乗って来るはずで、「子ろば」に乗るという行動によって、人々の常識を変えたのです。彼は武力ではなく、謙遜と愛で人々に仕える平和の君であります(9-10、マタイ21:4-7)。争いと恐れに満ちた世界で、その平和は人々の心に広がり続けるのです(ルカ17:20-21)。

◎古い時代の王や将軍が凱旋する時、馬車に乗って甲冑をきらめかせ、敵国の捕虜を縛り、行列を仕立てて入城していたのです。しかし、王の王であるイエス様の入場は無位無冠で、数名の弟子たちに付き添われただけです。

しかも「ろばの子」に乗っての入場でした。これは「この方は正しい方で、救いを賜り、柔和で、ろばに乗られる」(ゼカリヤ9:9)の預言の成就なのです。ろばはパレスチナではひき臼を引いたり、重い荷物を運ぶために用いられ、きわめて従順で、頭を下げている容姿から謙遜の象徴でもあるのです。主イエス様は平和(平安)を与えるために来られた御方です(14:27, 16:33, 20:19, 21, 26)。「悪者どもには平安はない」(イザヤ48:22)のです。

◎主イエス様は私たち一人ひとりの罪を取り除くために死を覚悟してエルサレムに入場され、十字架の道を歩まれたのです。それは私たち一人ひとりを救いに導くためであり、罪の贖いの御業を成し遂げて下さるためであったのです。

「一粒の麦がもし地に落ちて死ななければ、それは一つのみかたです。しかし、もし死ねば、豊かな実を結びます。」はイエス様の十字架の死と復活によって成就したのです。キリスト者も己に死にキリストによって生きる時、実を結ぶのです。

◎イエス・キリスト様はエルサレムでご自分の身に起こる苦難について前もって3度予告しておられました(マルコ8:31, 9:31, 10:33)。またイエス・キリスト様は3度「過越の祭」にエルサレムに上られました(ヨハネ2:13, 6:4, 12:1)。その3度目の「過越の祭」では十字架の苦難を覚悟して、弟子たちの先頭に立ってエルサレムに向かわれ、ろばの子に乗って入城されたのです。その祭りの最中にイエス・キリスト様は十字架に架かって死んで下さったのです。かつてイスラエルの民が奴隷であったエジプトの地からの脱出を記念する「過越の祭」の最中に「過越の子羊」として屠られるためでした。